

島根の地域医療

第6号

島根県健康福祉部医療対策課
e-mail: iryou@pref.shimane.jp '04. Jan. 30

▲いつでもどこでも適切な医療が受けられる島根を目指して▼



◇明けておめでとうございます。

昨年4月に厚生労働省から来県し、現職に就いて以来、県の健康福祉行政全般を所掌する中で自分の業務のかなりの部分を医療対策、特に医師確保に割いて参りました。臨床研修必修化、国立大学の独立行政法人化に伴い、大学における医師の引き上げが始まり、現在、島根県は各地の病院において、空前の医師不足状態となりつつあります。従来、隠岐や山間地の僻地医療のための医師確保が課題でありましたが、最近では僻地にとどまらず、県内の都市部の病院ですら医師の欠員問題が生じています。精神科や産婦人科は特に状況がひどく、ついで内科や麻酔科、整形外科など大学からの欠員補充がままならず、地域医療の崩壊が始まりつつあります。中国地区各大学を医師確保のため行脚しましたが、どの教授にも冷たくあしらわれました。

医療は人間が生活する上での基本であります。島根県は少子高齢化が全国に先駆けて急速に進み、深刻な問題となりつつありますが、小児科医や産婦人科医が不足しているため、地元で子どもを生み育てる環境が整わず、また、医療提供体制の不備を問われ、企業誘致もままならないため、若者の県外流出に歯止めがかからず、少子高齢化に拍車がかかっております。

一昨年はこの「島根の地域医療」の読者の中から5人の方が僻地医療を志し、現在、島根県内各地で活躍されています。しかしながら、今年度はまだ少なく上記のような深刻な状況が続いております。そこで県は新たな医師確保策として、平成16年度は県立中央病院、松江赤十字病院、松江市立病院、国立浜田病院の協力の下、こうした大病院と僻地医療機関とを2-3年ごとにローテートする「しまね地域医療支援センター」構想を開始すべく、予算を組もうと考えていま

す。この「島根の地域医療」の読者の方々は島根県に少なからず縁のある方々ですが、島根県の上記のような状況をご理解いただき、一人でも多くの方が島根にUターンされ、島根の地域医療の再建にお力を貸して頂くことを切に願っております。本稿をお読みになられた方で少しでも関心のおありの方がいらっしゃれば大至急、医療対策課にご連絡いただけたらと思っております。新年早々重苦しい話で恐縮ですが、何卒宜しくお願い致します。

平成十六年正月



【健康福祉部次長 正林】

地域医療最前線その7

～ひたむきな情熱を益田より発信～

島根県の最西端に位置する益田市は、かつては材木の集積地として栄え、その名残で人口5万人余りの小さな静かな町に似合わず、駅前裏通りには今でも100軒を超える飲み屋さんが軒を連ねています。この町の歴史は古く、万葉の歌聖と言われた柿本人麻呂の史跡から、画聖雪舟の築庭を持つ医光寺や万福寺などの有名なお寺があります。この町外れに益田地域医療センター医師会病院があります。

当院は益田市美濃郡医師会の地域医療に賭けるひたむきな情熱によって、昭和61年5月に開設され、地域、行政からの暖かい支援の基に徐々に機能拡大を続け、本年4月のリハビリテーションセンター竣工によって併設の老人保健施設と合わせ、442床の医療施設となります。また平成10年には中四国地方では初めての地域医療支援病院の承認を受けています。

当院の活動の中で最近注目を浴びているものに、TQM活動があります。TQM(Total Quality Management)とは、全員・全体(Total)で、医療・サービスの質(Quality)を、継続的に向上させる(Management)ことです。もともと産業界で始まったQC(Quality Control)活動を医療サービス界に応用し、「患者さんに選ばれる病院づくり」を合言葉に活動を始め15年が経過しました。各職場単位の

QCサークルが年2回の院内発表大会でその活動成果を報告し、そこには県内外の数多くの施設から見学の方々がいらっしやっています。また院外の大きな大会でも多くの賞を頂けるようになりました。全国組織の「医療のTQM推進協議会」では、この医療の質向上に向けた改善活動の定期的な交流の機会(フォーラム)を毎年開催し、本年は当院がそのお世話を引き受けさせていただくことになっています。今までは、東京、大阪、福岡、金沢といった大きな都市でのみ開催されてきたフォーラムですが、島根の片隅の小さな町でも北海道から沖縄までの全国の医療関係者を迎え、立派に出来ることを証明したいと思っています。

生き生きと輝き、自信を持って仕事をしている職員を見ると、この活動の継続により蓄えられた力の大きさを実感させられます。

【益田地域医療センター医師会病院 狩野】



子ども休日夜間診療

～益田市が1月から開始～

益田市は、日曜、祝日の夜間の子どもの救急医療に対応するため、小児医療の在宅当番医事業を来年一月から始める。小児医療を対象にした在宅当番医制度は島根県内では初めてで、全国では同市を含め十五自治体が実施が開始の予定。

同市は益田市美濃郡医師会に委託し、市内で日曜、祝日の在宅当番医事業を実施。利用者の四割を子どもの急患が占めるが、医師の多くが内科医や外科医で、早期に専門治療が受けられる診療体制が求められていた。

事業は同医師会に委託。市内の小児科医と内科医八人が交代で、日曜と祝日の午後五時から同九時までの在宅医療を受け持つ。二〇〇五年度末までの事業費は約三百九十万円で、三分の二を国と県が補助金で賄う。

市地域保健課は「子育て中の親の不安解消と、緊急性の低い子どもの受診の削減で、救急病院の負担軽減が見込まれる」としている。

【山陰中央新報03.12.6より抜粋】

県のドクターバンクから

●求人・求職取扱状況

(平成15年12月26日現在)

<求人>26件

邑智郡(病院)/整形外科、精神科
鹿足郡(病院)/内科
浜田市(病院)/内科
飯石郡(病院)/内科
出雲市(診療所)/胃腸科、肛門科
邑智郡(病院)/内科、整形外科、在宅医療
益田市(病院)/精神科
隠岐郡(その他)/不問
鹿足郡(病院)/内科、外科
仁多郡(診療所)/内科
出雲市(診療所)/在宅医療
那賀郡(診療所)/内科
鹿足郡(病院)/放射線科、内科、麻酔科
益田市(病院)/内科、循環器内科、神経内科、呼吸器内科
松江市(病院)/内科、麻酔科
浜田市(病院)/内科、放射線科
江津市(病院)/精神科
仁多郡(病院)/整形外科、眼科、内科
松江市(その他)/不問
邑智郡(病院)/泌尿器科、放射線科、産婦人科
八束郡(病院)/内科、リハビリテーション
八束郡(診療所)/内科、循環器科
松江市(その他)/不問
仁多郡(診療所)/内科、小児科
大原郡(病院)/麻酔科、精神科
出雲市(病院)/内科

<求職>1件

希望の担当科/老健施設・健診・麻酔科・一般内科・透析

●申し込み手続き及び詳細につきましては、当紹介所までお問い合わせ下さい。

[電話番号] 0852-21-8813 (専用)

<http://www.shimane.med.or.jp/dcbank.htm>

【担当：戸谷・吉岡】

◇『県立こころの医療センター(仮称)』整備へ

県立湖陵病院は、県内唯一の公立精神単科病院であり、昭和44年の開院以来、県の精神医療の基幹的病院として、児童・思春期医療の実践、院内デイケアの実施など、島根県内はもとより全国的にも先駆的な役割を果たしてきました。

しかしながら、施設の狭隘化・老朽化が進み、また度重なる増築による非効率化が目立つなど、新たな医療需要に対応することが難しくなってきたため、このたび、21世紀における本県の精神医療の拠点として移転新築することになりました。

新しい病院は、従来の機能に加え、早期社会復帰をめざした「短期集中的治療の実施」「社会復帰や地域ケアの支援」、ストレス社会でのメンタルヘルス対応などの「新たな医療需要への対応」「外来機能の充実」、地域における精神医療の支援のための「医療従事者の研修・教育機能」など

8項目を基本的な役割として担うこととしています。

移転先は、出雲市内の県農業試験場桑園跡地(42,834㎡)ですが、市街地により近い上、近隣にJRの駅も位置するなど公共交通機関の利便性も良好



で、立地条件に恵まれています。県民誰でも心の相談に気軽に利用できる医療施設として、名称も新たに、平成19年度中の開院を目指し、整備を進めていきます。

なお、新病院の整備に当たっては、県事業として初めてのPFI手法を導入し、医療の質の向上(患者サービスの充実)と効率的な病院運営の実現を目指しています。

新しくなる『県立こころの医療センター(仮称)』にご期待ください。

【医療対策課 吉川】

◇~~風に~吹かれて~~5

今回は年の初めといたしまして、本年4月から開始される新しい形での初期臨床研修に関して、島根県立中央病院(以下当院)のお話しをしたいと思います。

当院では、平成6年度からプライマリ・ケアに重点を置いた**初期臨床研修プログラム**が開始されて



います。Aコース(内科系)、Bコース(外科系)、Cコース(その他)の3コースが準備され、いずれもローテート方式で自治医大卒業医はもとより、各大学の医局から派遣される初期研修医にも適用されてきました。また平成14年度からは初期研修医の公募も開始され、院内の医学教育委員会は強化されました。この度の初期臨床研修必修化に向け、医学教育委員会が中心となり厚生労働省の意向に沿う形で、従来のものとは一新した**初期臨床研修プログラム**が準備されました。

本年4月から当院には単独型臨床研修病院として採用された初期研修医のほかに、島根大学医学部付属病院の協力型臨床研修病院として、島根大学のプログラムに従って研修を行う医師が来ます。協力型の初期研修医は、1年目を島大付属病院で研修し2年目を当院で研修するか、またはその逆の順序で研修します。単独型の初期研修医として11名(内1名が自治医大出身医)、協力型として1名

が決定しています。

最後に地域保健・医療の研修、なかでも地域医療研修のことをお話します。地域保健・医療研修は2年目の必修科目として2ヶ月間の予定であり、そのうち地域医療研修として1ヶ月間、施設は原則として隠岐病院もしくは島前病院で行います。ご存知のように2病院とも隠岐諸島にある離島の病院で、周囲には2病院と地域医療支援ブロック制を形成する数ヶ所の診療所があり、研修はそこでも行われることになっております。今後2病院等と研修に関して詳細なことまでも話し合いを持ち、初期研修医にとって実り多きものになりたいと考えております。

【医療対策課兼中央病院 木村】

(注)地域医療支援ブロック制とは、拠点の病院と診療所との間で週1、2日診療所医師が病院で勤務し、替わりに診療所での病院医師が専門診療を行うシステム

None Blue Rose



価値観が多様化し生き方が多岐になったとよく聞く。思うように表現せよ、旧時代的なものにとらわれず自由意志のままに生きよとも言う。が、理念となる型がないから模倣に走る。結果小さな違いを個性と勘違いして得意になっているのが時代の風潮であるように見える◆モノとカネが中心となって久しい。社会の歪みが顕著となって生きにくくなってきた。しかし時代で共有し人を幸せにする価値感はまだ生まれていない。仲間内でのみ気を遣い、知らない人には不機嫌と無礼を決めこむ若者。自分を律し美しい生き方などどこ吹く風、現状に汲々とする大人たち。価値観が多様化したどころか単調になってしまった◆話題の映画「ラストサムライ」が描いているのが武士道である。患者の心身を大きな目で押し量りつつ、常に前向きに地域医療の道を歩む医師たち。一握りの悪徳医師が紙上を賑わす一方で、現代に生きる真の赤ひげ先生たちは気高い武士道をまさに体現し、光り輝いている **F**

青い薔薇は園芸家の夢。藤紫、明藤色はあっても真の青はないとのことでBlueRoseは不可能という意味。NoneBlueRoseは私たちの地域医療への熱いメッセージです。



島根県庁医療対策課の連絡先

E-mail : iryuu@pref.shimane.jp

TEL : 0852-22-5251

ホームページ[島根の医療] :

<http://www.wah.pref.shimane.jp/med/>

